

Oita Yufumi

**VOL.10**

Hospital

発行 / 2013年4月

# 大分ゆふみ 病院たより

 大分ゆふみ病院





## ホスピスの役割

院長 一万田 正彦

医学が進歩しているとはいえ、がんとは厄介な病気です。

がんになればいろいろな心配が生まれます。身体にどのような苦痛が襲ってくるのか、精神的に弱ってしまわないか、家族に負担をかけてしまわないか、生きる意欲を維持できるのか、といったものです。

そのような苦痛に対する関わりとして緩和ケアがあり、それを提供できる病院として大分ゆふみ病院があります。当院で出来ることとして、患者さんが痛みやその他の苦痛から解放されること、患者さんの不安や怖れに対して耳を傾けていくこと、患者さんの人生がその人らしく生きてゆけるように支えていくことなどがあります。

また、緩和ケアの対象となるのは患者さんだけでなく、そのご家族にも当てはまります。ご家族は患者さんを支えることで心身ともに疲れた状態になります。そのようなご家族は患者さんにとっては支える立場でありながら、またスタッフに支えられる立場となります。

ホスピスには「暗い」「淋しい」といったイメージがあるようですが、私たちスタッフは、患者さんとそのご家族に対して、先に述べたようなケアを精一杯行なっています。患者さん、ご家族にとって「ここに来て良かった」と言ってもらえるような病院を目指して、これからも日々励んでいきます。



## 看取断想

患者ご家族 塔鼻 勝人

### 1. 入院前のことなど

私たち夫婦は、ゆふみ病院が開かれた平成13年秋の開院記念式典に出席している。病院の眼下には、杵原神社の原生林や樹齢3千年の大楠が繁茂。周辺一帯は生命の息吹に充ち、自然・歴史環境は良好。ホスピス・ゆふみ病院の発足は、まさしく大分県の医療史に特筆されるべき快挙であった。

あれから10年。思いもかけなかったことだが、家内が肝がんとなり、治療専念の末、余命告知を受け、お世話になることとなった。こんな次第で、家内はゆふみ病院の機能と役割を知っていた。世間では、がん医療は日進月歩し、高度化、専門化しているといわれている。しかし、ごく初期の標準的ながんをのぞき、がんは切れれば終わりという訳にはいかない。私たちの例をいえば、後が大変だった。患者と家族の苦悩は深刻化をたどり、常にどうしたらいいのだろうかという不安につきまといわれていたのが現実。医療は不安産業と思われたり、がん難民といわれても仕方がない状況下におかれたこともあった。

### 2. がん治療は総力戦時代

家内のがん治療には、納得できる何かが必要だった。全てが終わった後で知ったことだが、平成21年に厚労省は「チーム医療の推進に関する検討会」を発足させ、チーム医療という発想で、がん治療のあり方を変える定義・提案をしている。つまり拠点病院では不十分。がん治療は、真に患者と向き合うことが



できる総力戦時代を迎えている。患者側からすると、チーム医療が欲しい。だが関係機関は重い腰をあげようとしていない。

### 3. 先導的な医療

チーム医療に関しては、次のような例がある。例えば、東京・江東区にあるがん研有明病院。静岡県立がんセンターの多職種チーム医療・よろず相談事業。浜松市にある聖隷三方原病院の緩和ケアとがん治療の併用実施などがある。だが、問題は近くなければならないということである。視点は違うが、近年、東北大学文学部に、死期が迫った患者や家族のため、心のケアを行う宗教者・臨床宗教師の養成、実践宗教学講座が開設された。ともあれ、現在のがん治療は、がん患者、医療関係者、地域をあげた総力戦時代になろうとしている。

### 4. 看取りの日々

家内に対する関係医師の2月時点での余命告知は、4月初旬ごろだろうということだった。

私はこのことを家内には告げなかった。入院前、顧問の佐藤俊介先生と大澤さんから面談があり、次の2点が強調された。一つは「患者の望みはできるだけ叶えてあげる」もう一つは「可能な限り患者に付き添うように」ということだった。看取りの根本原理であった。私たち家族は、このことを実行した。入院以来、夫婦は家にいる時と同じように暮らした。話題といえば子や孫のことが多かった。家内は私に配慮の上、死について語ることはなかった。好物の補給、病床でのパーマ、一泊予定で家にも帰った。余命告知があった桜の季節になっても元気に見えた。一方、私は気分を紛らわすかのように、西行が詠んだ「ねがわくば 花の下にて 春死なん その如月の望月のころ」を思い出していた。家内はそれから2ヶ月間、病床で暮らしたが、その間、近くにある熊野神社に参拝したり、風の日に村の中を散歩したり、デパートに洋服を買いに行ったり、外食したりした。5月12日にうな重が食べたいというので、買ってきたが半分ほど残した。この日の夕刻から微熱が開始された。死亡した5月31日まで通算97日間、病院でお世話になったが、その間、遺言めいたことは何も言わなかった。

ただ庭園の樹を見ながら「樹の緑がこんなに美しいものだということが初めて分かった」と語ったことがある。このとき、私は家内がサムシング・グレート（この自分ではない誰か）と交信したのではないかと思った。

次は痛みが切迫したとき「苦しくてどうしようもない」と訴えた。こんなとき家族に何ができるのか、ただナースコールを押すのみである。終末期、昏睡していたはずの家内が、突然「あんたも一緒に家にかえろうよ」と言った。私は「分かった。明日朝にかえろう」と言ったのが最後の会話になった。人は亡くなるときに、闇に降りていく感覚があるという。だが看取る人には道しるべなど分かりはしない。家族は無力。だが病人の側にいて、優しく付き添ってあげることができる。大切なのはこのことなんだと思う。



ホスピスで手当を受けるがん患者は10%弱とされている。永眠の日、家内はきれいに死化粧をしてもらい、帰りには院長以下、在院中の全職員が玄関先に整列。見送ってくださった。こんな心にしみる儀礼は他では見ることができない。

# 四季折々

当院では、毎月ごとにさまざまなイベントを行い、患者さんや家族と共に季節を感じながら楽しい時間を過ごしています。

## 春



うらかな春、中庭の花々が満開になり、皆さんのたくさんの笑顔も美しく咲き誇ります。



ご家族と一緒に中庭の枝垂れ桜を満喫しました



中庭



着物姿の娘さんたちと一緒に…



「後ろは、桜。両手に、花。いかが？」



メジロもお花見にやって来ます!

## 夏



輝く夏、多くの緑に包まれて、散歩や夕涼みなど、外で過ごす時間が、待ち遠しくなります。



緑に包まれた中庭



夏祭り「やりまっせ〜」



楽しい夏祭り





# 秋



心地よい秋、シンボルツリーの  
けやきの葉も深く紅く色づき、  
秋風が気持ちよく吹き抜けます。



玄関前のけやき



母娘うさぎ発見。楽しいお月見会でした。



「このままずっと静かな夜が過ごせたらいいな。」



穏やかな散歩の時間「秋桜の髪飾り、似合う？」

# 冬



白く染まる冬、温かい笑顔に  
包まれてクリスマスやお正月を  
楽しく過ごします。



餅つき大会



「ヨッ！職人技！」



節分「やさしい赤鬼と一緒に！」



中庭の雪景色



クリスマス会



## 感謝

| 看護師長 / 後藤 隆子 |

この度、私は平成 25 年 3 月 31 日をもって師長職を辞することになりました。大分県に初めて出来るホスピス立ち上げの当初から関わらせていただきました。病院名は、大分の名山・由布岳が見える病院ということで大分ゆふみ病院と開院準備室で決めました。

ナースの教育、ボランティアスタッフの養成、必要物品の検討調達搬入、開院記念講演会、開院前見学会、全てにおいて貴重な経験でした。たくさんの助言を受け、支持をいただき、ようやく開院にたどり着いたときにはほっとすると同時に、緊張もいたしました。その後、12 年という月日が流れていくうちに、それぞれのスタッフが自分の役割を立派に果たしてくれ、チームが機能していると思えるようになりました。

ホスピスケアの働きから考えると、スタッフは辛い別れを体験することも多く、スタッフの支えになれていない自分に気づき、自分の未熟さに申し訳ないと思うこともしばしばでした。後任には有能な人材が着任しております。患者さまやご家族の方から感謝の言葉をいただくと、反対にこちらが感謝と尊敬の念を抱きました。多くの方々に支えられ、これからも大分ゆふみ病院はその役割を果たしていくでしょう。今後の発展とスタッフの活躍を祈念いたします。みなさんが育ててくださった大分ゆふみ病院をこれからもよろしく願っています。ありがとうございました。



## ご挨拶

| 新看護師長 / 堺 千代 |

大分に初めて出来たホスピス、12 年の歴史の中で初めて師長交代という時が来ました。この日が来なければと、どれほどスタッフや私は思ったことでしょうか。しかし、これからは後藤師長が病院の立ち上げから心をこめ、すべてのことを見つめてきたゆふみ病院の良さを受け継ぎ、さらにスタッフと共に今まで以上のゆふみ病院に成長できるよう切磋琢磨していきたいと思っております。これからもご指導、ご支援よろしく願っています。



## 真心

| 事務長 / 永井 孝一 |

昨年の 4 月に事務長として着任いたしました。大分県の緩和医療の中心を担う、大分ゆふみ病院の一員として、緩和ケアの普及と啓蒙に尽力して行きたいと思っています。

ところで、当院では、現在 43 名のボランティアスタッフがいます。患者さんにご家族に寄り添いながら、喫茶の提供、ハンドマッサージ、折り紙、パッチワークキルト、ピアノ演奏、園芸など、心のこもった活動を行なっています。外から「日常の風」を運んでくるボランティアスタッフの活動にもご注目ください。



ハンドマッサージの様子



園芸の様子



パッチワークキルトの様子



## ■ 研修・施設見学受入れ状況 (2012.4.1~2013.3.31)

### 研修

- 卒業臨床研修医 15名 (大分大学医学部、大分県立病院)  
 医学生研修 4名 (大分大学医学部6年次生)  
 看護師研修 10名 (大分県看護協会、福岡県看護協会)  
 看護学生研修 24名 (大分大学看護学科4年次生、大分大学大学院看護学修士課程)  
 薬学生研修 11名 (九州保健福祉大学、第一薬科大学、崇城大学、広島国際大学)

### 施設見学 47名 (医療関係者40名、その他7名)

医師4名、看護師17名、薬剤師2名、社会福祉士4名、介護支援専門員6名、介護士1名、栄養士1名、事務職5名

大分県立病院、天心堂へつぎ病院、織部病院、日赤長崎原爆病院、下関市立市民病院、県立広島病院、新行橋病院、北海道勤医協中央病院、高齢者福祉施設創生の里

※入院患者さん、ご家族ともに、ご迷惑をお掛けしないよう細心の注意を払っていますのでご協力をお願いいたします。

## ■ ホスピス診療記録 (2012.4.1~2013.3.31)

### ■ 入院患者数

167名 (男77名、女90名)

### ■ 平均年齢

71歳

### ■ 住所分布

大分市118名、大分市外49名

(大分市外:別府市9名、由布市5名、宇佐市4名、杵築市4名、豊後大野市4名、県外5名など)

### ■ 紹介元病院

大分大学医学部附属病院、大分県立病院、大分赤十字病院、大分医療センター、やまおか在宅クリニック、大分岡病院、厚生連鶴見病院、別府医療センター、新別府病院、吉川医院、大分中村病院、宮崎医院、訪問診療クリニックのぞみ、河野脳神経外科病院、大分市医師会立アルメイダ病院、井野辺病院、国東市民病院、九州がんセンターなど

### 入院までの流れ

#### ① 入院相談

電話で入院の相談を行った後、まず患者さんの容態など現状を伺います。また、入院や見学を希望の方は、来院日時のお約束をします。

#### ② 医師による診察面談

入院希望の方は、患者さんご本人またはご家族に対し、医師による診察と面談が行われます。また施設の見学もできます。  
 ※紹介状とX線フィルムなどを持参していただけます。

#### ③ 入院判定会議

医師、看護師長、医療ソーシャルワーカー(相談員)によって行われます。

#### ④ 会議の入院決定の連絡

患者さんへの入院の適否、日程について連絡を入れます。

#### ⑤ 入院

相談員、または医師が患者さん、ご家族、紹介元病院と連絡を取り入院の調整を行ないます。

### 病院理念

**大分ゆふみ病院は  
『今を生きる』患者と家族を支えます。**

1. 患者と家族の権利と尊厳を守る診療・看護を実践します。
2. 心身の不快な症状の緩和につとめ、最善のケアの提供を目指します。
3. 家族の不安や悲しみが和らぐように支えます。
4. さまざまな職種とボランティアがチームを組み、ケアにあたります。
5. 大分県の緩和ケアの発展に寄与します。

## ご案内

入院をお考えであったり見学をご希望される方は、  
必ず電話予約をお願いいたします。

※予約をされていないと相談が重なり、対応できない場合やお待ちいただく場合がございます。

### ■入院の対象となる方

- 医師が治癒が期待できないと判断した悪性腫瘍の患者を対象。
- 患者と家族、またはその何れかが入院を希望していることが原則です。
- 入院時に、「病名・病状」について理解していることが望ましく、理解していない場合には、患者・家族の求めに応じて適切な説明が行われます。
- 社会的、経済的、宗教的な理由によりお断りすることはありません。

### ■がん疼痛緩和外来 [要予約]

がんによる痛みやしびれなどでお困りの方、また、痛みにより眠れない方など、どなたでも直接外来受診や電話相談に応じます。専門の緩和治療医が対応いたします。お気軽にご連絡ください。 ※要予約

### ■在宅を希望する方

ご自宅で生活を希望する方は、訪問診療で症状コントロールすることも可能です。必要に応じて、訪問看護、ヘルパーと連携いたします。

### ■講演依頼を承ります

緩和ケア・ホスピスについてわかりやすい内容で、講演活動を行っています。お気軽にご相談ください。

### ■ホスピスセミナーを開催しています

ホスピスカケアをより多くの方に知っていただくために、ホスピスセミナーを春・秋の年2回、開催しています。詳細につきましては、ホームページをご覧ください。(http://www2.ocn.ne.jp/~yufumi)



まず、相談窓口へお電話ください。

☎ 097-548-7272

電話受付時間 / 月～金曜日 AM9:30～PM4:30 (祝日は除く)

#### 交通のご案内

- バスをご利用の場合  
大分駅より大分交通<机張原>行き、  
上金谷迫停留所下車。
- 車をご利用の場合  
大分駅より車で15分、大分インターより車で5分